2020年10月号 No.415

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう104

ジョウビタキ

分類　スズメ目　ツグミ科

住んでいる環境
・平地から山地の林、公園など

見られる時期
・１０月～３月

小鳥の森で見られる場所
・ネイチャーセンター付近
・かんさつ広場
・自由広場

かぶらぎ　まさとさん（6才）が描いてくれました。

10月 いきもの森予報

小鳥の森のカモ類

10月になると冬鳥飛来の便りを耳にするようになります。冬鳥というとジョウビタキやツグミなどの小鳥類がまず思いつきますが、実は私たちがよく目にするカモのほとんども冬の季節の鳥なのです（カルガモ、マガモ、オシドリは日本国内でも繁殖（はんしょく）します）。

カモは川や池、湖などで冬を越すために、日本よりも北の国から渡ってきます。小鳥の森には水辺がほとんどないため、カモを見る機会は多くはありませんが、カワセミの小径の終点にある五本松沼では、沼の水が凍らない時期であれば観察できるチャンスがあります。一口にカモといっても何種類かおり、メスこそ地味ですが、オスは種類ごとに色合いが異なり、中にはとてもきれいなものもいます。

カモ類は小鳥と比べて大きく、また水辺に群れているため探しやすい鳥です。小鳥の森で見られるカモ類の写真を参考に、秋のバードウォッチングをしてみてはいかがでしょうか。

マガモ

コガモ

キンクロハジロ

ホシハジロ

オシドリ

9月 いきものニュース

秋の音色

今年は夏から秋への移り変わりがあっという間で急に涼しくなりました。季節の移ろいは生き物たちが教えてくれます。虫の音が聞こえてくると「秋だなぁ」と思う人もいるのではないでしょうか。

虫の音といえば、コオロギ・キリギリスの仲間が鳴く声。基本的に鳴くのは夜ですが、日中でも草かげの暗いところで鳴くものもいます。小鳥の森では約20種類が確認されており、その音色は様々で、草むらでたくさんの種類が鳴いているときはとてもにぎやかでした。

日本で虫の音を楽しむようになったのはかなり昔のこと。童謡「虫のこえ」でもいくつかの虫が登場しますね。しかし今は“虫の音を聞く”ことが少なくなり、そこに出てくる虫を実際に知っている人は少ないかもしれません。虫の音で秋を感じるという日本ならではの風習で、小鳥の森は今年も秋を迎えることができました。

スタッフだより

野鳥の渡りの季節です

秋は夏鳥が日本の南へと、冬鳥が北から日本へと渡り始める季節です。この時期には、身近な場所で普段目にしない野鳥を観察する機会が増えます。

探すポイントは、エサとなる食べ物がある場所です。小鳥の森では、クマノミズキという木の実が野鳥に人気が高く、冬鳥のヒタキ類やツグミ類、また通過時期にのみ観察できるエゾビタキ等が食べに来ます。

木の実が多い場所では何種類かの野鳥を同時に見ることもあります。身近な場所に実のつく木がないか探してみてはいかがでしょうか。

（レンジャー　ほそい　としひろ）

お山の大将あつまれ！活動報告

9月6日、13日に第3回お山の大将あつまれ！を開催しました。今回のテーマは「水辺の生き物観察と池堀り」。去年、この活動で作った池に何が住み着いているのかを調べ、池をさらに大きくしました。トンボのヤゴや大きなドジョウにみんな大盛り上がり。ドロだらけになりつつも、楽しんで池を掘っていました。

森のたからもの探し

小鳥の森では毎月「森のたからもの探し」を行っています。お題のものの写真をとってきてくれた方にオリジナル缶バッジをプレゼントしています（お題と缶バッジのデザインは毎月変わります）。10月のお題は「赤か黄色の葉」、缶バッジは「ジョウビタキ」です。

期間：10月1日（木）～10月31日（土）

＊小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページで**カラー版**をご覧になれます。

＊園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター）　開館時間：午前８時３０分～午後５時
《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）
〒960-8202　福島市山口字宮脇98　　Tel：024-531-8411　fax：024-534-8800
小鳥の森のホームページ・・・http://www.f-kotorinomori.org/
小鳥の森通信「しじゅうから」2020年10月号№415／企画・発行：福島市小鳥の森／日本野鳥の会ふくしま